

## アメリカ・マサチューセッツ州のユダヤ人コミュニティ：民族性の研究

綾部, 恒雄  
九州大学

<https://doi.org/10.15017/2231594>

---

出版情報：九州人類学会報. 5, pp.34-36, 1977-12-15. Kyushu Anthropological Association  
バージョン：  
権利関係：

# アメリカ・マサチューセッツ州 のユダヤ人コミュニティ ～ 民族性の研究 ～

九州大学 綾部 恒雄

## 1. 調査の概要

この報告は「米国における民族諸集団とその価値体系に関する文化人類学的研究 — 民族性の伝達と文化的多元主義との関連 — 」というテーマの下に、科学研究費補助金（海外学術調査）を得て、昨年7月から10月までの100日余、日本側5人、米国側2人の調査者によって行なわれた実地研究の成果の一部である。

各調査者は1人1民族の担当を原則とし、それぞれの調査対象民族の分布する地域のコミュニティに定着して調査をおこなった。綾部恒雄（研究代表者）は、マサチューセッツ州のアマースト市（Amherst）を中心としたユダヤ人のコミュニティを、青柳清孝はロサンゼルス市とテキサス州のシュリブポート市（Shreveport）における黒人のコミュニティを、江淵一公はコネティカット州ハートフォード市（Hartford）南方のニューブリテン市（New Britain）のポーランド人のコミュニティを、黒田悦子はニューメキシコ州アルブカーキ市（Albuquerque）近郊におけるチカノのコミュニティを、星野命はシカゴ近郊のイタリア人のコミュニティを、J・ハルパーン（マサチューセッツ大）はスプリングフィールド市（Springfield）近郊のアイルランド人とユダヤ人のコミュニティを、D・ローズ（ペンシルベニア大学）は、ペンシルベニア州東部のケネット・スクエア（Kennet Square）近くのプエルト・リコ人のコミュニティに定着し、夫々実態調査を行なった。

本報告は、このうち、綾部が担当したマサチューセッツ州西部の5つのユダヤ人のコミュニティについての実態調査の中間報告である。

## 2. 調査地とユダヤ人

今回調査したのは、アマースト市を中心にほぼその南北に点在するアソル（Athol）、グリーンフィールド（Greenfield）、ノーザンプトン（Northampton）、ホリオーク（Holyoke）およびスプリングフィールドの各市にある5つのユダヤ系アメリカ人のコミュニティである。

周知のように、西暦73年にローマ軍によってエルサレムを放逐されてより約2000年の間、祖国を失ったユダヤ民族は、中東、アフリカ、ヨーロッパそしてアメリカへと離散していった。い

いわゆるユダヤ人のディアスポラである。祖国の後盾を失ったユダヤ人の存立は全く寄留地支配者の政策に依存していたといってもよい。ユダヤ人たちは、当該寄留国家の支配者の政策に依存しながらも、ユダヤ民族の固有性を守り、2000年の間ダイナミックに対応して生きてきたのである。

アメリカへ最初に上陸したユダヤ人は、1654年にニューヨーク（当時のニューアムステルダム）へ来た23人のポルトガル系グループであり、以後アメリカの独立戦争の後まで、スペイン系ユダヤ人の移住が続く。次いでほぼ1812年～1880年の間（ヨーロッパにおけるナポレオン時代のあと）ドイツ系のユダヤ人の移民が多くなり、更に1880年から1940年代にかけては東欧系ユダヤ人が大量（約300万）に移住してくるのである。現在アメリカには約600万のユダヤ人が住んでいる。イスラエル建国後もニューヨーク市は世界で最もユダヤ人の多い都市である。アメリカに最も多い東欧系ユダヤ人は、イディッシュ（東欧系ユダヤ人の言葉）を話し、シテートル（東欧のユダヤ人部落）に居住していたが、政治的圧迫と貧困のため、シテートルをあとにしたものがほとんどである。ポグロム（pogrom ユダヤ人に対する私的な計画的虐殺）という言葉はロシア生れである。

### 3. ユダヤ人のコミュニティと組織体

私がマサチューセッツ州西部で調査したのはこうした東欧系ユダヤ人であり、移民の一世で今なお活躍している人も多い。今回の民族性調査で私が採用した方法は、面接調査と、多様さを誇るユダヤ人組織体の特色の分析である。またこれらと併行して文献調査をも精力的に行なった。私が面接したユダヤ人の職業は、大学教授、食堂経営者、ラビ、家具商、弁護士、小児科医、大学生、老人ホームの管理者、看護婦など多岐にわたる。面接調査と文献調査の結果得られたユダヤ民族の文化的特色が、彼らの組織体の特色にどのように反映しているかを捉えること、逆に云えば組織体分析を通して民族性を捉えることを主眼とした。

面接と文献調査の結果得られたユダヤ民族の文化規範 cultural norm を要約すると、ほぼ次の4点にしばられる。

1. 家族主義
2. 知性主義
3. 互惠主義
4. 世俗主義

これら4つのユダヤ民族の文化的規範が、彼らの組織体に如何に反映されるかということを見るために、先に紹介した6つのユダヤ人コミュニティのそれぞれについて、あらゆる組織体の生成の歴史をあとづけるとともに、現存の組織体の性格、内容、活動について可能な限りの資料収集を試

みた。また、たとえばハダッサ (Hadassah. ユダヤの婦人たちによるイスラエルの病院の財政  
扶助組織で、ユダヤ主義, シオニズムを信条とする。1969年の統計では、1,350支部、  
318,000人の会員を持つ組織) やブネイ・ブリット (B'nai B'rith. 1843年にニューヨ  
ークで創立された組織で、1970年現在約500,000人の会員をもつ。反ユダヤ的言動を監  
視し、会員の共済をはかる) のような国際的組織、300種以上にのぼるといわれる全国組織の資  
料をも収集分析し、以上の6コミュニティにおける組織との対応を考察した。この結果、民族集団  
の組織体の特色分析を通して、その民族性を捉えることはかなり有効な方法であるという確信をも  
つに至っている。(組織体分析の詳細については、紙幅の関係上ここでは省略した)。しかし、こ  
れがユダヤ民族の特色であるというためには、ユダヤ民族以外の諸民族についての同種の組織体分  
析をおこなうことによって検証しなければならないであろう。